

人でなければなりません。教育學の實地的研究と云ふのは一二冊の教育學書を講義して貰つただけではないので尙此上に實地に練習し工夫し調査することを云ふのです。

以上養育と活動の兩方面に就て相當の考があり技術があれば夫れで家庭保母の技量は充分でありますが併し其人が愈家庭に入るとしてはも一つ調へなければならぬ事があります。之が家庭保母撰擇上に於ける最後の試験で之を満足にパスする程の人を之からの上流社界では大に要求するに違ひないのです。其は何かと云ふと家庭保母其人の人格即ち之です。如何に考へがあり技量があるにしても之を愈實地に行ひ施して効果あらしめることが出来るか出来ないかと云ふことは所詮其人の人格問題です。世間には能く一つに調へると腕前もあり、學識もあり可なり有爲な人であると思ふのに愈實地に働かして見ると一向映へない人があるが是等は多く其人自身が充分の纏

りがつかず。凡べての識見が組織整頓しないために統一した行動を表はすことが出来ないので詰まる所人格の成立が不十分なのである。人格に缺ける所があつては教育は到底行はれるものではありませんから斯様な人は如何程素養があつても役には立ちません。

今後家庭保母を選ばざる方又は自ら家庭保母たらんと思ふ人は以上の三點に殊に注意することが必要でせう。

おはなし

筑紫の媼

一、溺れかゝつた子供

一人の子供が川の中に落ちて溺れかゝつて居つたところ、そこを通りかゝつた人が見付けて、すぐに助けるのかと思へばそうでなく、ゆつくりと話をしかけた。一なぞおまへはそんなに言ふ事をきかなんだ、おまへは川の深い事を知らなかつたのか、阿母さんは其中へ入るなと言つただらう、それにおまへは言ふ事をきかなかつたから罰をうけたのだ。すると子供は「なごさんどうか早く助けて下さい、あとでゆくり小言をききますから」(廿六頁につづく)